



# ハカルワカル広場だより

八王子市民放射能測定室

第42号

2023.7.20 発行

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場  
〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル2F

HP <https://hachisoku.org> ① [hachisoku@gmail.com](mailto:hachisoku@gmail.com) ☎ 042-686-0820

ゆうちょ銀行振替口座:00180-8-290904 八王子市民放射能測定室  
他行からは ゆうちょ銀行:018-0224460 八王子市民放射能測定室



## 5月13日お茶会 竹峰誠一郎さん講演会概要

### 「東電福島第一原発からの海洋放出——太平洋諸島から反対の声」

#### はじめに

昨年 11 月に北マリアナ諸島へ行き、東電の汚染水海洋放出をどう捉えているのか、人々の声を聞いてきた。美しい海にあるテニアン島は、東京大空襲の時、B29 の出撃基地になった島で日本とは深い繋がりが



テニアン島

がある。2021年4月に菅元首相が海洋放出の方針を表明し、東電は環境への影響は軽微であると結論づけ、原子力規制委員会が認めた。2023年夏頃から30年以上かけて薄めて放出とのことだが、汚染水は増え続けるので半永久的に続けられるであろう。政府は廃炉と福島復興を実現するためには海洋放出が不可欠と正当化し、経産省は海洋放出は安全基準を満たしている、環境、人体への影響は考えられない、国際的に認められている、と広報している。また、これは汚染水ではなく、ALPS 処理水であり、汚染水と呼ぶのは風評被害を広げると批判している。これに対し、トリチウムやほかの放射性物質などいくつかの論点があるが、それとは違う太平洋諸島からの視点で話をしたい。

北マリアナ諸島は小笠原諸島からも近く日本のお隣のような場所。歴史的にも文化的にも日本との関係が深い。現在はアメリカの自治領だが、選挙に関しては植民地支配の名残で様々な制約がある。また、核と



戦跡 日本軍の銃砲

戦争の面でも日本とは切っても切れない関係にある。広島、長崎に原爆を落とした B29 はテニアン島で原爆を積み込み日本へと飛び立った。テニアン島とサイパン島には至る所に戦跡があるが、これは日本で唯一の地上戦と言われる沖縄戦の前に、硫黄島や北マリアナ諸島で日米の地上戦が行われたからだ。日本軍の燃料倉庫や銃砲もまだ残っている。またスミヨシ神社の跡などもある。これは 1914 年から 30 年間日本が南洋群島を統治下に置き、沖縄や内地から大量の移民が移り住んでいた名残。日本の南洋興発という会社が創設され、テニアン島は製糖業の拠点となった。現地人の人口が 3~4000

人のところへ、1930年代後半からは日本から4万人を超える移民が入り、そのうち4分の3は沖縄からだった。そのためここでも多くの沖縄人が犠牲になった。このように植民地化された歴史が長かった土地だが、本来は現地人チャム口の人たちの土地だった。

## 1. 北マリアナ諸島議会決議

2021年9月に北マリアナ諸島下院で「核廃棄物を太平洋に投棄する日本政府の決定を非難する」決議案が上程され、同年10月に下院本会議で採択、12月に上院本会議で全会一致で採択された。これをリードしたのは下院議員(当時)のシーラさん。

決議では、「日本の決定に大きな失望を表明」し、「オセアニアの人々は、歴史を通じて、外国の核活動から甚大な影響を受けてきました」と、太平洋と核の歴史を詳述している。

1979年に日本政府は、太平洋諸島側に一切相談することなく、低レベル核廃棄物を北マリアナ海溝に投棄する計画を発表した。この計画では、北マリアナ諸島北端から約800キロ離れた小笠原諸島北東の水深6200メートルの公海域が候補地だった。太平洋諸島からの激しい反対の声に、日本からも連帯する動きがあり、公害問題第一人者だった宇井純氏が、核廃棄物を海に捨てるのは公害輸出そのものと指摘した。その成果もあって1985年に中曽根元首相が凍結を判断。その後、日本海にロシアが核廃棄物を投棄したことがわかり日本が抗議し、日本は海洋投棄に反対する立場となって今に至る。

これは単なる史実ではなく、今回の日本の汚染水海洋投棄を、オセアニアの人々は1979～80年代に起きた問題の再来と見ている。さらには大国の核開発の犠牲となってきた、それと同じ図式の問題と考えている。決議を起案したシーラ元議員は、私たちに影響を与えることなのに、何の連絡も相談もなく、遠く離れた場所でこの決定が下されたことに怒りを感じると話した。



テニアン島元下院議員のシーラさん(前列中央)

実はシーラ元議員を含む20～30代の人たちは、汚染水の問題を知るまでは核との関わりについてあまり知らなかったのだが、過去を知る80代の人々が若い議員に情報提供した。1970～80年代に、核についての大国のやり方に大きな反発が広がり、太平洋独立運動が大きく盛り上がったが、当時その運動に参加した人が、そのネットワークから情報を得て動き今回の決議に至ったのだ

太平洋反核運動の特徴は、非核と独立(脱植民地)がセットになっていることだ。太平洋で核の犠牲、核の問題が繰り返されてきた根

底には植民地支配があるので自決権が必要と言われてきた。今回も自分たちの独立を揺るがす問題として捉えている。日本政府の北マリアナ領事館はこの決議に対し、地元紙を使って「トリチウム水を流すのは世界中で行われていること」、「IAEAの基準を満たしている」などと反論。また議員へのロビー活動も行った結果、日本政府を名指しで非難する決議名は修正され、「太平洋地域での核実験、貯蔵、および廃棄物処分に関連するいかなる政府の行動にも反対し、誰もが安全で健康的な生活環境に対する基本的権利を有することを再確認すること」となり、全会一致で採択された。ただ名称は変わったが中身には、日本政府の今回の行為に対して「失望する」とはっきり書かれている。

決議には海の重要性が繰り返し語られている。これは「海に放出」が正当化される背景として、海を単なる水だと考え、水に流せばいいという、海の価値を無視するような考え方があるからだ。それに対し、海は単なる水じゃない、我々の生活の場であり生命線なのだ、その生命線に対する脅威なのだと訴えている。

北マリアナ諸島憲法には、第1条人権の中に環境権を記載した条項があり、その中に「核物質または放射性物質の貯蔵、およびあらゆる種類の核廃棄物の投棄または貯蔵は、法律で定められている場合を除き禁止する」と明確に書かれている。

## 2. 北マリアナ発 太平洋地域自治体連合(PAMC)

議会レベルだけではなく、地方自治体の議員からも反対の声が上がっている。地方自治体の議員の集まりである太平洋地域自治体連合(PAMC)が去年の夏に反対の署名活動を始めたこと知り、その人たちの話を聞きに行くと、海は食料、経済のみならず精神的な面でも自分たちにとって大切なものだと話してくれた。汚染水放出はそういう生き方に対する脅威なのだと。PAMCの副委員長であるワニータ・メンディオラさんは、「いかなる国も太平洋の一部をゴミ捨て場として使用することを許さない」「いかなる国も、他国



PAMC 副委員長ワニータ・メンディオラさん(中央)

に脅威を押し付けることを自ら決定する権利はない」と言い、「いかに阻止するのか、世界的な協力体制を模索し、支援を得ようとオンライン署名をはじめた」という。放射能の問題は人に直接的な影響を与えるものなのに、気候変動のように注目されていないので、国連人権理事会に先住民族(チャムロ)の権利の侵害として訴える、と話していた。ワニータさんの父、フィリップ・メンディオラさんは1979年～の日本政府の核廃棄物投棄に反対を訴えるために来日した人だった。彼は当時、「やっと戦争が終わり、これで爆弾もなけりゃ、召集もないとみんな安心し、質素な暮らしながらも自

分の家をつくりなおして生活しているところに、……原子力のゴミ……危険なものを私たちの近くに持ってきて投げる、……日本政府は私たちをどこまでも踏みつぶそうというのか」と訴えた。そんな父の思いを受け継いで、ワニータさんは今反対の声を上げている。

2022年11月にPAMCが反対の抗議決議を上げ、同12月にはお隣のグアム市長会でも「断固反対」、「断罪」の決議を上げている。

## 3. 太平洋諸島政府機関から相次ぐ海洋放出への「懸念」

北マリアナ諸島だけではなく、太平洋諸島の政府機関からも反対の声が上がっている。2021年に菅元首相が海洋放出の表明をした同日に、太平洋諸島フォーラム(PIF)のデйм・メグ・テイラー事務局長は談話で「重大な懸念」を表明した。PIFにはニュージーランド、オーストラリアも入っており、オセアニアの政府機関を代表する機関である。そこが、PIF加盟国・地域との更なる協議と承認を得ることや独立した専門家による検証を求め、それらを実施するまでは排出を行わないよう緊急要請した。そのときに強調されたのは、「ラロトンガ条約(南太平洋非核地帯条約1985年8月6日採択)は、放射性廃棄物やその他の放射性物質による環境汚染のない地域を維持することを目的としている」ということ。放射性廃棄物の海洋投棄はこの条約で禁止されている。この条約を作ったのは、PIFの前身である南太平洋フォーラムであり、それは、フランスの核実験をはじめとする外国の核の活動に対して反対をする地域の連携を強化するために作られた。PIFはその精神を受け継いで反対する声を上げている。

2021年5月8日には、マーシャル諸島共和国政府が「太平洋地域の近隣諸国および世界中の友人たちとともに」海洋放出に「懸念」を表明するという声明を発表した。「海は暮らしの源である」と述べ、日本政府に代替策の検討、海洋環境保全のための国際的義務の履行、独立した調査、対話の実施などを求めている。

NGO のベディ・ラキュールさんは、「私たちはもう騙されません。海洋投棄の放射能影響は取るに足りないものと言います。しかし、われわれにとっては重大です。ここで海洋投棄を許したら、かれらはもっと多くのことをするでしょう」という。これは歴史的な経験に照らした発言といえる。

2023年2月には太平洋諸島フォーラム代表団が来日し、日本政府と交渉を行ない岸田首相や経産大臣にも会っている。代表団の一人、マーシャル諸島共和国のキットランド・カブア外務大臣は「核汚染は太平洋にとって現実的かつ重大な脅威であり続けている。太平洋諸島は真剣に受け止め、これ以上の汚染を防止する法的義務を負っている」。「国境を越えた被害と世代間の影響は、特に生計を海に依存する小さな島々にとって、依然として深刻な懸念である」と、人々の健康や生活に対する広範で永続的な影響を強調した。

## おわりに

海洋放出への懸念や、反対している太平洋諸島の声に耳を傾けると、海洋放出は科学的な「安全論議」だけでは捉えられない問題であることが明らかになった。「安全」であると誰が決めるのか。「安全論議」には、放出される海とともに暮らす太平洋諸島の人々の存在が無視されており、彼らの反対は、そのことへの異議申し立てであるとも言える。自分のところでは処理できないものを、太平洋の海に捨てるという行為自体が問題なのだ。

(報告 石井暁子)

## 【お茶会アンケート結果】

- \* 太平洋の島々でひっそりと生きる人たちの存在を無視していいか？と聞かれば、「そんなことがあっていいはずがない」と答えますが、汚染水の問題を考えると、そういうことが意識にほとんどなかったことに、愕然とする思いでした。
- \* 今までモヤモヤしていたものがすっきりわかったような気がしました。汚染水の海洋放出は、放出されるものが汚染水かどうかということではなく、汚染されていると言われるものを、自分で処理しないでどこかに捨てるということへの問題なのですね。
- \* 原発汚染水海洋放出について国内だけでなく海外からどう見られているのかを語られたのがよかったです。
- \* この放出は初めてではなく、過去に前歴があった。宇井純さんたちが反対した公害輸出問題、マリアナ海溝に低レベルの核廃棄物を捨てようとした過去を思い出させてもらいました。そして政府が捨てるのを諦めたという過去の事実がある！一筋の光が差したようでした。
- \* 過去の日本の植民地支配のことを考えれば、その償いの意味でも日本の政治家たちは現地の人々の声に真摯に耳を傾けなければならないのに、決してそうならない現実、深い悲しみを覚えます。
- \* 「海は私たちの生命線」だという人々に対し、海をゴミ捨て場程度に考えているような日本政府の行いは恥ずべきものだと感じます。海の幸を食べて生きてきた日本人にとっても、海は生命線のはず。



## 竹峰 誠一郎さん プロフィール

1977年、兵庫県生まれ。2012年、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了。博士(学術)。現在、明星大学人文学部人間社会学科教授。和光大学4年生の1998年からマーシャル諸島に通い続け、現場にこだわった核被害の研究を進める。2004年、グローバルヒバクシャ研究会を創設し、共同代表の一人。第五福竜丸平和協会専門委員。

主著:『マーシャル諸島 終わりのなき核被害を生きる』(新泉社 2015年3月10日)、「重層化する核被害のなかで—マーシャル諸島発「核の正義」を求めて」、(藤川 賢・友澤悠季編著『シリーズ 環境社会学講座1:なぜ公害は続くのか 潜在・散在・長期化する被害』新泉社 2023年4月20日 に寄稿)

## 新宿御苑に汚染土を持ち込まないで

NPO 法人 新宿代々木市民測定所 伏屋弓子

初めまして！ NPO 法人新宿代々木市民測定所の伏屋と申します。

〔新宿御苑への放射能汚染土持ち込みに反対する会〕(以下「反対する会」)の世話人をしています。

先日は新宿区議会への陳情書の署名にたいへん多くのご協力をいただき、その数の多さに驚くとともに、胸の熱くなる思いがいたしました。本当にありがとうございました。

みなさまもご存知の通り、昨年末突然に、環境省が福島県中間貯蔵施設の放射能汚染土を新宿御苑に持ち込み、「実証事業」をすると発表しました。そもそもの発端は、その中間貯蔵施設で管理している放射能汚染土を 2044 年度内に福島県外で最終処分するという、国と福島県の約束です。その期限までに、東京ドーム 11 杯分もの汚染土をできるだけ減らすため、8,000Bq/kg 以下であれば再生利用して良いという基準を国会も通さずにいつの間にか作って、全国にばらまこうと画策を始めたというわけです。そしてそこに多くのゼネコンが群がっています。「汚染土は宝の山」というわけです。

「反対する会」では、統一地方選挙後に新宿区議会にあて再度同じ陳情書を提出しました。結果は残念ながら「審議未了＝実質廃案」となりましたが、その審議の過程で、新宿区が以下の考えを持っていることがわかりました。

- 新宿御苑の近隣以外の住民も参加できる住民説明会を求める
- セシウム以外の核種も測定する必要があること

特に、セシウム以外の測定の必要性を認めたことは非常に大きい意味があると思います。環境省は、交渉の場で、どんなに私たちが訴えても「文科省の調査でセシウムだけで良いという結論が出ている」の一点張りなのです。

皆さんは、アイリーン・スミスさんが紹介している「水俣と福島に共通する 10 の手口」というものをご存知でしょうか？ 例えば「①誰も責任をとらない。縦割り組織を利用する ②被害者や世論を混乱させ「賛否両論」に持ち込む」等々、納得の内容が続くのですが、その中のひとつに「被害を過少評価するような調査をする」というのがあります。この汚染土の問題でセシウムしか測定しないという態度は、まさにこれですね。科学的理由などは全くなく、ただひたすら被害を見える化しないのが目的なので、環境省には歩み寄る余地はありません。新宿区はこの点、被害を見える化しろと言っているわけなので、この違いは大きいと思います。このように、環境省の画策を、ちょっとずつでも切り崩して行って、みなさまと共に、全国への汚染土ばらまきを阻止していきたいです。

ハカルワカル広場は「新宿御苑への放射能汚染土持ち込みに反対する会」の呼びかけに応じ、署名の協力をしました。その会の世話人、新宿代々木市民測定所の伏屋さんにご寄稿いただきました。

「放射性廃棄物(ごみ)は集中して管理する」が鉄則なのに、汚染土も汚染水も拡散しようとする。両者とも根は同じだと思います。バラまいては被ばくを広げるだけです。(編集部)

### 実施事業の内容 実施場所 (新宿御苑)



「環境省 HP 新宿御苑で実施予定の実証事業に関する説明会」資料より

### 3月5日映画会「原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち」

4年ぶりの対面映画会を終えて ボランティア 鈴木映子

「次の映画会は外部会場を使い対面でやろう」事務局会議でそう決まったのは、昨年9月のこと。コロナの感染者数もだいぶ少なくなり、不安ながら「待ってました！」という決定でした。そして上映する映画は対面決定前から、これはぜひやりたいと下見をしていた『原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち』と決まりました。

この映画は、2014年関西電力大飯原発の運転停止命令を下した、福井地裁元裁判長樋口英明さんと、放射能被災で一度はあきらめた農業を太陽光発電とともによみがえらせる福島の人々を追ったドキュメンタリーです。誰にでもわかりやすく、原発の危険性を明快に指摘する樋口理論を多くの方に知ってほしいと思いました。また、被災し打ちのめされながらも、新しい太陽光発電と農業の形を模索し力強く前に進もうとしている方たちに、次の時代への希望を感じて明るい気持ちにもなりました。

この映画を是非みなさんに見てほしいという時に、一番気になったのは感染対策でした。最初の実施案を作った頃は、マスクや検温、消毒だけでなく、感染者が出た場合にそなえ、入場者の連絡先を聞いておくことも考えました。しかしその後、感染対策を緩めても良さそうな状況となり、マスクだけお願いするということになり、ホッとしたものです。

今までのハカルワカルの映画会やイベントでは、映画などを観た後に、トークセッションや意見交流会などを企画し、参加者がどのように関わっていくか考える足掛かりになるような時間をとっていました。今回は、久しぶりということもあり、上映前に「ハカルワカル広場の歩み」というスライドショーを見ていただくことにしました。

当日は4年ぶりということもあってか、たくさんの方に来ていただくことができました。久しぶりで懐かしささえ感じるような皆様との再会でした。映画のすばらしさはもちろんですが、ご来場いただいた方やボランティアとして仕事をしてくださった方など、たくさんの方に支えられているという実感が、感動を大きくしてくれました。

これからもどんな映画会やイベントにするか悩みながら、原発も核もない未来のために、たくさんの方たちと共に活動していきたいと思っています。





## 「原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち」の感想まとめ

### 【映画の感想はいかがですか】

☆ とても良かった 98人 ☆ まあまあ 3人 ☆ 良くなかった 0人

- \* きびしい政治の中でもこの作品の基調の明るさに希望が持てる。誰が何を言おうと原発が危険であることに違いない。人間の良識と科学は必ず勝利する！「戦争反対」とともに「原発反対」を貫こう。
- \* このような大地にしっかりと足を付けた映像(現実)がどうして日本中に広がらないのか……残念、無念であります。大地の力を信じ、農業のすばらしさ！！すごい！！初参加です。82歳の高齢者の自分が悔しいと今日初めて思いました。あまりにも現実の真実を知らなさ過ぎていました。余りにも勉強不足の自分の無知を恥ずかしく思います。
- \* 福島の農産物を今まで購入して来なかったが、購入しようと思う。私も東北なので福島のエネルギーを感じた。もっと人びとの生活や農業などを知りたい。
- \* 説得的であり、また原発の被害の実態、国や電力会社の不当性と共に、苦しみを受けながらも原発を止めるために諦めずに歩む人々、農家のソーラーの取り組みに大変勇気と希望をもらいました。人格権、生存、生活こそ最高の価値であり、それが奪われず、人々が生きられることこそ「国富」であること。判決が出た当時から感激しましたが、この映画で判決の中身がより生き生きと受け止められました。原発ゼロに向けて、人格権が輝く社会に向けて頑張りたいと思います。「使えるパンフレット」どんどん使います！！素晴らしい映画をありがとうございました。みんなで映画に出てきた農場見学に行きたいです。
- \* 福島原発事故は日本最大級の公害であるという言葉、CO2削減、環境問題を原発運転の根拠にすることは全く筋違い！！という言葉——胸にどんと響きました。また裁判官に大切なことは独立心！！その通りですね。最近の日本は三権分立が壊れていると感じています。これからもこうした映画をお願いします。
- \* こういう映画を全国の高校生・大学生に見せて、原発の危険性を問う裁判についてどう思うか、原発をこの地震大国で続けられるのかを問えば「国民」の総意は明らかになるのではないだろうか。この映画をありがとうございました。
- \* 私達の世代で廃棄物を作った。その世代責任は放置できない。手段を尽くして安全を追求していく。農地の再生に真摯に取り組む姿に深く感銘を受けました。エネルギーの民主化に興味深く聞きました。原発のない社会を！
- \* あらためて原発はだめだと思えました。こういうイベントに参加する人の年齢層が高年齢でいつも気になります。もっと10代～30代の人が集まり問題意識を持ってもらうイベントを考えて欲しいと思います。
- \* 樋口氏、河合氏をはじめこの会の方々に感謝です。この会を広げて原発ストップさせましょう。一緒に頑張りたいと思います。



## GX 脱炭素電源法ってどんな法律？

～実は、「原発推進法」だった～

Q1. 今回の国会で成立した GX 脱炭素電源法というのはどんな法律ですか？

A1. “環境(グリーン)に配慮し、脱炭素を目指す”法律として 5 つの法律が束ねられています。けれどその中身を見てみると、原子力発電所の運転延長、新設、増設、建て替えなどを後押しする内容です。

Q2. 具体的にその 5 つの法律とはどんな法律ですか？

A2. ①原子力基本法 ②原子炉等規制法 ③電気事業法 ④再処理等拠出金法 ⑤再生可能エネルギー特別措置法(再エネ特措法)の 5 つです。

Q3. どうして 5 つの法律を束ねたのですか？

A3. 再エネ特措法と原発に関する法律を束ねることにより、一括して採決することを狙ったものです。どれも重要な法律なので束ねての審議は不完全なものでした。

Q4. 具体的な内容を教えてください。例えば「原子力基本法」で何が決まったのですか？

A4. 「原子力基本法」は原子力の憲法ともいわれ、原子力利用の基本的な哲学や方向性を示すものです。そこに、原発を活用して電力の安定供給や脱炭素社会の実現につなげることを「国の責務」と明記しました。「国の責務」として、原子力産業をあらゆる面で支援する(税金をつぎ込む)ということです。これでは、本来、原子力事業者が自らの責任で実施すべき内容を国が肩代わりすることになり、原子力利用を永続化する恐れがあります。

Q5. 老朽原発の運転期間を延長できるようになったとか？

A5. 福島原発事故の反省から、2012 年に与野党合意のもと、原発の運転期間を「原則 40 年 最長 60 年」と決めていました。ところがこの法律で、再稼働の審査などによる運転停止期間を運転年数から除外することで 60 年超の運転が可能になりました。これは、原子力基本法に原発の運転期間の規制は脱炭素や電気の安定供給のためと位置づけたことで、運転期間についての規定を原子力規制委員会(規制側)が所管する原子炉等規制法から削除し、経済産業省(利用側)が所管する電気事業法に移すことを可能にしたからです。これで原子力を利用する立場の経済産業省が、原発の運転期間に関する決定権をもつことになりました。

Q6. そもそも原発は脱炭素や地球環境のためになるのですか？

A6. ウラン鉱山から燃料棒製造までの工程(採掘、精錬、濃縮など)で莫大なエネルギーを要し、そのほとんどが化石燃料なので、原発は膨大な CO2 を出すと言えます。また、ウランの採掘に始まる燃料製造工程で発生する放射性廃棄物から使用済み核燃料に至るまで、地球環境を汚染する核廃棄物を出します。また原発は温排水を海に捨てて、海水温を上げてしまうので、むしろ環境を破壊していると言えます。

5月 31 日、GX 脱炭素電源法が成立しました。福島原発事故の教訓を忘れたかのような原発回帰の法律です。「脱炭素社会の実現、電源の確保」のために「原発を活用する」というのが骨子ですが、原子力発電は脱炭素社会の実現に役立ちません。再生可能エネルギーの活用拡大こそ脱炭素化に最も貢献するものです。原子力産業への支援ではなく、再生可能エネルギーの普及こそが「国の責務」なのではないでしょうか。

(編集部)

### 参考資料

日本経済新聞 原発運転「60 年超」可能に GX 電源法が成立

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA307UX0Q3A530C2000000/>

FoE Japan オンラインフォーラム:「原発回帰 GX 法」が意味すること～今後に向けて

<https://foejapan.org/issue/20230615/13267/>

東京新聞 原発「60 年超運転」法が成立

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/253622>

## Atomtex AT1320A 測定結果(2023年3月~2023年6月現在)

ゼオライトの Cs134 初期値引き算前(Cs134 初期値は 30Bq/kg 程度) 不検出は記載していません。

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
自宅の土	2023.4.9	東京都	目黒区五本木	463	500	120.0	24.0	13.4	4.2	
公園の土	2023.4.6	東京都	世田谷区池尻	583	1000	111.0	23.0	12.9	5.2	次の10年測定
公園の土	2023.4.6	東京都	世田谷区	409	500	107.0	21.0	10.5	4.1	次の10年測定
掃除機ごみ	2022.4~2023.3	東京都	八王子市打越町	261	1000	91.1	21.7	25.5	10.7	
里山の土(筍の周辺)	2023.4.18	東京都	八王子市中山	884	1000	89.4	17.9	4.2	以下 不検出	
自宅の土	2023.4.9	東京都	目黒区五本木	614	500	87.8	17.6	13.5	3.7	次の10年測定
庭の土だけ	2023.4.10	東京都	八王子市片倉町	524	500	75.9	16.6	15.7	5.0	
自宅の土	2023.4.9	東京都	目黒区五本木	820	1000	75.5	15.9	16.5	4.7	次の10年測定
庭の苔付きの土	2023.5.16	東京都	八王子市北野台	1014	1000	70.5	14.4	3.7	以下 不検出	次の10年測定
ゼオライト		静岡県	御前崎市B	642	1000	69.2	15.9	44.1	15.9	
雨樋下の土	2023.4.17	東京都	八王子市北野台	1532	1000	66.4	13.7	28.6	6.4	次の10年測定
里山の土①	2023.6.27	東京都	八王子市中山	878	1000	66.1	13.7	4.3	以下 不検出	次の10年測定
庭の土、小石半々	2023.4.10	東京都	八王子市片倉町	1002	500	65.4	13.7	16.5	4.4	
樹木灰	2022	東京都	八王子市館町	558	1000	57.2	14.1	21.8	8.2	
土	2023.2	東京都	八王子市	881	500	48.6	10.6	3.3	以下 不検出	
畑の土	2023.3.7	東京都	八王子市	1002	1000	46.0	10.3	20.1	5.1	次の10年測定
土	2023.2	東京都	八王子市	1802	1000	40.9	8.5	2.2	以下 不検出	
自宅の庭の土	2023.6.1	東京都	八王子市寺田町	839	1000	39.0	9.0	12.1	4.1	次の10年測定
土	2023.5.25	東京都	八王子市散田町	861	1000	34.1	8.0	10.9	4.4	
ゼオライト	2023.4.11	東京都	八王子市長房	989	1000	30.1	7.6	36.4	8.3	
畑の土	2023.2	東京都	八王子市館町	1150	1000	26.4	6.3	11.4	3.4	次の10年測定
畑の土	2023.6.1	東京都	八王子市小比企町	1000	1000	23.5	5.9	12.4	3.8	次の10年測定
土	2023.5.25	東京都	八王子市散田町	1198	1000	21.3	5.2	3.2	以下 不検出	
ゼオライト		静岡県	御前崎市A	1055	1000	19.4	5.8	33.3	7.6	
土	2023.3	東京都	八王子市檜原町	1398	1000	14.5	4.4	23.0	5.4	

測定室からのお願い 測定検体の容量は、0.5 リットルまたは 1 リットルです。多めにお持ちください！

## EMF211 測定結果(2023年3月~2023年6月現在)

不検出は記載していません。

検体	採取	県名	採取地	検体重量 (g)	測定容器 (cc)	Cs137 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	Cs134 Bq/kg	95%範囲 ±Bq/kg	備考
コシアブラ	2023.4.17	福島県	石川郡	361.8	1000	251.80	2.60	7.06	1.25	4時間測定 高い放射能
生タケノコ	2023.4.17	東京都	八王子市中山	609.5	1000	3.70	0.83	1.43	以下 不検出	2時間測定
生タケノコ	2023.4.24	東京都	町田市	345.0	500	3.16	1.11	2.03	以下 不検出	2時間測定
乾燥ミカンの皮	2023.1.30	神奈川県	山北町	401.6	1000	2.70	0.90	1.61	以下 不検出	4時間測定
生タケノコ	2023.4.12	東京都	町田市野津田町	355.8	500	2.19	0.78	1.43	以下 不検出	4時間測定
マイタケ	2023.6.30	新潟県	新潟県産	513.9	1000	2.15	0.94	1.70	以下 不検出	2時間測定
ドクダミの葉茎	2023	東京都	八王子市本町	328.1	1000	1.82	1.08	1.96	以下 不検出	4時間測定
くず米	2022	石川県		877.9	1000	1.06	0.55	0.99	以下 不検出	2時間測定
あんぼ柿	2022.12.21	福島県	伊達郡桑折町	638.8	500	0.64	0.43	0.80	以下 不検出	4時間測定
わらび	2023.6.1	長野県	南牧村	904.1	1000	0.33	0.21	0.38	以下 不検出	24時間測定



## 2023 年度総会報告

ハカルワカル広場代表 西田照子

2023年6月3日、ハカルワカル広場の2023年度総会を実施し、無事終了しました。GX法が成立し原発回帰が政府の方針となったいま、私たちのような市民レベルの「原発反対」の運動はより重要性を増すのではないかと考えています。

総会のありかたについては私たちハカルワカル広場の総会は定足数も決めず、それゆえ委任状も取らないものですが、委任状をとることにエネルギーをかけるより、原発反対の運動にそのエネルギーを注ごうとの考えでやってきました。だから、形式にとらわれない、簡潔、シンプルなものです。

### 今回の総会の報告をします。

2022年度の活動報告、決算報告、また2023年度の活動方針案、予算案が事務局から提案され、それぞれ質疑応答もなされた上で、出席者全員の方の承認を得ました。

### 質疑応答では、主な質問は、

1. 会員数の減少が続いているが、どのように収支をあわせていくのか？
2. 運営委員の選出方法が規約にないがどのようにして決めているのか？
3. 永久会員とはどのような規定か？
4. 規約には測定結果は「原則として公表する」となっているが、活動方針では「すべて公表」となっている。表現に齟齬があるので統一すべきではないか？
5. 活動方針に原発の永久停止が書かれていないがなぜか？

### 上のような質問が出ましたので、それぞれお答えしました。

1. 会員数の減少は増やす努力を重ねていく。
2. 運営委員の選出はボランティアになってもらうのも難しい現状では「選出」を云々できる状況ではない。
3. 永久会員とは開設時に多額の寄付をいただいた団体、およびプロの方でその技を無償で提供して下さる方に感謝の意味で会報を送っている。
4. 測定結果の数値はすべて公表しているが、個人情報を書けないのでその表現になった。文言の齟齬を解消するため、活動方針の文言を「測定結果は個人情報を除きすべて公表」と改める。
5. 原発の永久停止がないのは原発反対の運動で精いっぱいであり、言葉はないが永久停止を望んでいる。

最後に、開室時間は10時～12時とすることに決めました。また、うれしい報告として、ハカルワカルは現在の場所を当分使えることになりました。皆様にご心配をおかけしましたが、ご安心ください。

2023年度も「次の10年の放射能測定プロジェクト」参加者を募集中です。ぜひ、次の10年の放射能測定にご協力ください！地道な活動を通して汚染実態を知り(知らせ)、原発反対運動の力としましょう！ハカルワカル広場は会員とボランティアが協力して原発反対の道を歩み続けます。総会がそのための前向きな議論の場でありますように。



## 維持会員の声

「何歳になっても」

維持会員 金子淑子

私がハカルワカル広場の会員になったのは2014年3月1日です。ハカルワカル広場第5回映画会「放射線を浴びた X 年後」の上映会場で申し込みました。多くの人々と同様に、私も2011年3月11日の震災、特に福島原発事故に衝撃を受けていました。「チェルノブイリの時も JCO の時も問題意識や危機感を持ちながら見過ごしてしまったこと」に自責の気持ちも強かったです。それ以来学習会や集会やデモや…うろうろしてハカルワカル広場にたどりつきました。初めて測定室の見学をした時、ボランティア西田真さんの「ここに来られれば、何歳になっても活動続けられるよ」との言葉は今でも忘れられません。放射能測定だけでなく活動メニューの豊富さにも驚きました。

あれから9年、今年の春～初夏は、福島の教訓を葬り去るような原発回帰の「GX 脱炭素電源法」をはじめ「改正入管難民法」「LGBTQ 理解増進法」等々様々な法案が、人権や平和、日々の生活等に多くの問題が指摘されているにも関わらず可決されました。私は怒りを乗り越えて本当に情けない気持ちにもなっていました。そんな時6月5日の東京新聞夕刊ロングインタビュー「あの人に迫る」に、「放射線を浴びた X 年後」の監督伊東英朗さんが登場したのです。伊東さんは長年核実験による被害を追い続け、今年「サイレント・フォールアウト」(ネバダ実験場での核実験による米国本土の汚染をテーマにした映画)を完成させています。放射能の問題と向き合い続ける理由についてはひとと言「あまりに理不尽だから」そして「放射能の問題の一番のネックは、被害の実相が明らかにならないまま忘れられていくこと、延々とそれが繰り返されることだから」と語っていました。

この記事を読みながら、ふっと初心に戻りました。また今まで私の心に響いた多くの人々の言葉も甦りました。それらの言葉は「あまりに理不尽」と同じようにとてもシンプルでストレートな気持ちがこもったものでした。核・放射能・原発の問題に反対し行動することは「シンプルで当たり前のこと」だと、毎週金曜日の原発反対金ハデモのテーマソング「原発なくたって」の優しい歌詞そのものだと改めて感じ入りました。今、私も日々の暮らしを大切にしながら、この「当たり前の言葉」を言い続けていこうと思っています。西田真さんの言葉通り「何歳になっても」のつもりでいます。

「自然から見えるもの」

維持会員 坂牧 悦子

はじめまして。浜岡原子力発電所二回目の見学会に参加して以来お世話になっています。今は仕事などが忙しくなり活動に参加することは少なくなりましたが、最近、日常の些細なことで思うことがあったのでお話しします。

六月始めにあった台風のことは記憶にあると思います。私の家のそばの浅川も、いつもは白鷺が歩いて餌をつついていっているような川床は全く見えず、一帯が茶色い濁流となって増水していました。勢いは弱まっても川が透明になるまで丸三日かかりました。青空が広がり暑いくらいのお天気と濁流とは、対照的でなにか違和感がありました。

確かに、山の向こうで降った雨がここに流れてくるまでの時間差はいつだってあったはずです。川は繋がっているということも当たり前のことです。それがおとなしく澄んだ流れの時は気づきもしない。当たり前によってくることは見過ごしてしまいがちです。何処か別の場所で起きたこともちゃんと時間差でやってくるという肝心なことを思い出しました。空も川も海も大地も繋がっている。

中洲にあったゴミは流され一見きれいですが、化学物質や農薬、マイクロプラスチック、放射性物質、PFAS も混じっています。それなのに横たわった葦の近くにカルガモの親子が戻ってきて元気に泳いでいました。燕も空中を飛び回り巣作りを再開したようです。そして私も呑気に日常に戻ってしまいました。現状は何も変わらないのに。

けれども、日常の見える範囲で物事を見、気持ちよく安心して暮らしたい。ハカルワカル広場とねっこのところは共通していると感じています。



## 測定室からのご報告とお知らせ

- \* 4月1日(土)4月お茶会「原発をとめた裁判長」を振り返り語る会  
3月の映画会「原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち」を対面のお茶会で振り返りました。「対面の映画会はいいいね」、「農業と太陽光発電に未来を見出した若者たちは希望ですね」、「地震国日本で耐震性の低い原発の稼働を許さない裁判長、偉い！」などの感想が。この感想については p.6~7 をご覧ください。(参加者:15名)
- \* 5月13日(土)5月お茶会「東電福島第一原発からの海洋放出 太平洋諸島から反対の声」講師:竹峰誠一郎さん 講師自身北マリアナ諸島のテニアン島を訪れ、現地の声を集めての講演は説得力がありました。「汚染水の海洋放出はなんの断りもなく自宅のゴミを他人の庭に捨てる行為と同じ。そんなに安全ならなぜ日本は自国内に留め置かないのか?」という極めて当然の声。大国の核実験などで核被害にあってきた太平洋諸島の人々。捨てられる側の人たちの声をもっと聴くべきという講演でした。詳しくは巻頭記事参照(参加者:オンライン 25名、会場 6名)
- \* 6月3日(土)2023年度総会  
2022年度の活動報告、決算報告、2023年度の活動方針、予算案などを承認いただきました。詳しくは p.10 をご覧ください。朗報を一つ。「ハカルワカルの今の場所を当分の間貸していただけます。ご安心を!」すべて山田真先生のご厚意です。本当にありがとうございます!(参加者:オンライン 15名、会場 12名)
- \* 7月1日(土)7月お茶会「福島原発訴訟の成果と課題」講師:塚本和也弁護士  
原発の被災の実態を現地で見たことで「原発裁判」に関わりたいと決心された塚本弁護士を講師に迎えての講演会。原発裁判の実態を講演いただきました。(参加者:オンライン 19名、会場 10名)
- \* 開室時間が変更になりました。火曜日~土曜日 10時~12時

「次の10年の放射能測定プロジェクト」参加者募集!

あなたの身の回りの土や気になるものを測定してみませんか?  
ハカルワカル広場では「10年目の土壌測定プロジェクト」に続き「次の10年の放射能測定プロジェクト」参加者募集中です。福島事故から12年がたってもまだ放射能の汚染は続いています。事故を忘れないためにも、子供を守るためにも身の回りの汚染の実態を測りましょう。ぜひ気楽に測りに来てください! スマホのカメラを右のQRコードにかざして、出てきたURLをクリックして下さい。



### これからの予定

- \* 8月8日(火)~8月19日(土)まで夏季休室です。ご了承ください。
- \* 9月2日(土)9月お茶会...アメリカの核被害の学習会(仮称)
- \* 10月7日(土)10月お茶会...未定

会員が減って困っています。  
お問い合わせをご紹介ください!

### 「311子ども甲状腺がん裁判」原告支援カンパのお願い 原告の若者たちと一緒に応援しませんか?

辛い治療を受けながら裁判を闘っている7人の若者を一緒に応援しませんか?

いただいたカンパは全額原告に届きます。

「三菱UFJ銀行 四谷支店(店番 051)

口座番号:0549130

口座名義:311 甲状腺がん子ども支援ネットワーク

ハカルワカル広場は維持会員の会費とボランティアで運営されています。

八王子市民放射能測定室

ハカルワカル広場

〒192-0053 東京都八王子市八幡町 5-11 八中ビル 2F  
お電話 問合せ 042-686-0820

HP: <https://hachisoku.org> メール: [hachisoku@gmail.com](mailto:hachisoku@gmail.com)  
【開室】火曜日~土曜日:10時~12時

ボランティア、維持会員募集中!

お問い合わせはハカルワカル広場まで

寄付も大歓迎です! ゆうちょ銀行 00180-8-290904 (八王子市民放射能測定室)  
他行からの振込は 018-9224460 (八王子市民放射能測定室)